

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名 地域高規格道路 黒崎道路 一般国道3号 黒崎バイパス	事業 一般国道 区分	事業 国土交通省 主体 九州地方整備局
起終点 自：福岡県北九州市八幡東区西本町 至：福岡県北九州市八幡西区陣原	延長 5.8km	
事業概要 黒崎バイパスは、八幡及び黒崎地区における国道3号の交通混雑の緩和と道路交通の円滑化を図り、地域経済活動の活性化支援に資するとともに、都市内の自動車専用道路ネットワークの機能を有する道路である。		
H3年度事業化	H2年度都市計画決定 (H25年度変更)	H5年度用地着手
全体事業費 約805億円		事業進捗率 約86%
		供用済延長 5.2km
計画交通量 27,500～54,800台/日		
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 7.0	総費用 (残事業)/(事業全体) 91/949億円 (事業費：88/928億円 維持管理費：3.2/21億円)
		総便益 (残事業)/(事業全体) 635/1,536億円 (走行時間短縮便益：484/1,168億円 走行経費減少便益：85/211億円 交通事故減少便益：66/157億円)
基準年 平成25年		
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.5～1.7（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.6～1.6（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.6～1.7（事業期間±20%）		
【残事業】交通量：B/C=5.6～8.3（交通量 ±10%） 事業費：B/C=6.4～7.7（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=6.4～7.6（事業期間±20%）		
事業の効果等		
①交通混雑の緩和 ・国道3号現道の交通混雑の緩和や走行性の向上 ②交通安全性の向上 ・国道3号現道の交通死傷事故発生件数の減少 ③救急医療活動の支援 ・第三次救急医療施設（北九州総合病院）への救急搬送の支援及び救急搬送時間短縮による救命率の向上 ④物流効率化の支援 ・都市高速道路との直結により自動車専用道路網が構築 ・奥洞海湾沿岸工業地域から交通拠点である高速道路IC、空港、北九州港（新門司地区）等への時間短縮、定時性の確保 ⑤観光振興の支援 ・北九州市の特徴である、環境関連の工場見学や工場群夜景観賞など、観光を中心とした地域振興プロジェクトの支援		
関係する地方公共団体等の意見 北九州市をはじめとする一般会員28団体、特別会員30名で構成される国道3号黒崎バイパス建設促進期成会（会長：(株)安川電機取締役会長）により早期整備の要望を受けている。（平成25年11月）		
北九州市の意見 国道3号線黒崎バイパスの道路事業は、企業活動を支援する物流の効率化や、交通渋滞解消の効果など、本市の産業振興や安全で快適な地域環境の改善に必要な事業であるため「九州地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）」のとおり事業を継続していただき、早期全線供用を望みます。		
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 北九州市の人口は、前回評価以降減少傾向であるが、一世帯あたり自動車保有台数は同程度で推移しており、自動車依存は高い。国道3号現道の交通量は減少傾向にあるものの、混雑度は約1.4である。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成24年度末の事業進捗率は約86%、そのうち用地進捗率は約93%となっている。		

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

- ・都市計画決定範囲の見直しにより、春の町ランプの取付形状を変更（事業区間・事業費の変更無し）
- ・新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上、事業の効果及び進捗状況、事業評価監視委員会における審議、地方公共団体等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。